

イネ科通信 50

ビロードキビ

今年（2015年）8～9月、暖地の海岸またはその付近に生えるというビロードキビ（イネ科）が岸和田市の神於山で見つかりました。海岸にみられる植物が里山に存在することは常識では考えられないことですが、事実は事実として認めざるをえません。海岸からどのような経路でやってきたのかを知りたいものです。それは低いブロック塀をつくった時、コンクリートに使用する砂にビロードキビの穎果（果実）が混ざっていたのではないかと思います。



左の写真は撮影時期が9月で花期を過ぎて穎果のみでしたので右側にインターネットから引用したものを並べました。

以下は日本イネ科植物図譜（長田武正著・平凡社）より引用しました。

〔花期〕8～10月、〔分布〕本州（和歌山県）四国、九州、マレーシア、インド、東南アジアの熱帯に分布する。

〔同定のかぎ〕小穂が列をつくって総となる点はメヒシバ属やナルコビエに似るが、明らかな第一包穎がある点で区別できる。また、ヒエ属からは小穂にまったく芒がなく、葉舌のある点で見分けられる。種としては全体多毛、葉の縁に小指針の並ぶのが特異である。下2枚の拡大写真をよくご覧ください。

（新聞紙に挟んで時間が経過していますので褪せています）

